

フークトープ通信 67

地方史研究協議会福島大会のご案内

大会実行委員長 阿部俊夫(伊達市)

地方史研究協議会は、日本史研究の基礎である地方史研究の推進を目的とする学会です。発足当初から、同会では毎年一回、全国各地の地方史研究者・研究諸団体と連携して、大会を開催してきました。本年度の第七五回大会は、一〇月一八日(土)・一九日(日)、福島県郡山市のけんしん郡山文化センターで開催します。福島県では初開催です。

開催にあたり、地方史研究協議会の常任委員と地元の研究者を中心に組織された大会実行委員会では、大会の共通論題を「福島の歴史像―交錯・衝突・交流からみる狭間の地域―」としました。

第75回 2025年度 地方史研究協議会大会

共通論題 **福島の歴史像**
―交錯・衝突・交流からみる狭間の地域―

期日：2025年10月18日(土)・19日(日)
会場：けんしん郡山文化センター(郡山市)
※東北大学会館特別貸室(無料)

大会費別表(2日連続)
【事前申込】会費：1,000円 一般：1,500円
【当日申込】会費：1,000円 一般：2,000円

第1日 10月18日(土) 9:30開場 10:00開始

第2日 10月19日(日) 9:20開場 9:40開始

地方史研究協議会 事務局(伊達市) 〒11202 郡山郡山文化センター1F
TEL: 02462-4119 FAX: 02462-4128

福島県は東北の最南端に位置していますが、気候や言語などに北関東とも共通性も多く、東北と関東の狭間の地域といえます。東北よりも、関東に親和性を抱いている福島県民も多く、近代に陸奥国が五国に分国された時、福島県は岩代国と磐城国となり、他の三国

は「陸」の付く陸奥・陸中・陸前の国名となったように、狭間の地域であるが故に、揺らぎを持つているのです。そのために、政治権力が交錯・衝突し、文化が交流する舞台ともなりました。

多くの場合、福島県の歴史は東北と関東を結ぶ南北の視点で考えられてきましたが、福島県は新潟県との関わりも深く、日本海の文化が郷土料理や年中行事に取り入れられるとともに、会津で生産されたからむしが越後縮の素材になるなど交流も見られます。そして、そのような交流は新潟県から日本海を通じて、北陸・上方へ展開していきました。今大会では、こうした東西の新視点も取り入れて、次の八報告(副題省略)と共通論題討論(議長:小松賢司氏・佐藤貴浩氏)により「福島の歴史像」について考えてみたいと思います。

共通論題研究発表

- 太田勇陽氏 「手工業生産から見た古代の福島と西日本」
 - 塩田優花氏 「室町期南奥の情勢変化と国人の対応」
 - 山田将之氏 「東西と南北が交錯する戦国末期の南奥世界」
 - 渡邊歩氏 「近世前期の会津藩における上層百姓の役割」
 - 佐藤愛未氏 「近世後期会津藩における藩領西部の交易政策と地域展開」
 - 石澤夏巳氏 「相馬藩の戊辰戦争と戦死者慰霊」
 - 白石烈氏 「明治期の会津松平家による明治維新史編纂」
 - 国分俊徹氏 「近代郡山における地域有力者と地域振興」
- このほか、自由論題研究発表(発表者:泉田邦彦氏・渡辺智裕氏)や公開講演(講演者:岡田清一氏・矢部洋三氏)もありますので、詳しくは地方史研究協議会のホームページをご覧ください。多くの方のご来場をお待ちしております。